

重点取組分野	令和4年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
自尊感情を育てる授業づくり	①指導・評価方法の研究を通して、主体的に学習に取り組む生徒を育てる ・指導・評価方法に関する実践研修(学習指導要領の研修) ・生徒による授業評価・授業研究 ②協働的な体験を通して、問題解決能力と実践力を育てる ・学年・学級活動・グループ活動	主体的に学習に取り組む態度の育成を目指し、年間を通じ指導・評価方法を研究し、特に校内授業研究では生徒の見取りについて研究を深めた。また、授業で協働的な学びを積極的に取り入れた。今後も研究を継続するとともに、ICTを取り入れた授業づくりの充実を目指す。	B
人権教育	①生徒一人ひとりの人権意識と自尊感情を育てる ・挨拶運動・人権週間の取組・金沢ブロック人権研修・校内人権研修 ②生徒理解を深め、課題の予防・早期発見・早期解決に組織的に取り組む ・生活アンケート・YPアセスメント・学年間での情報交換・SC、SSWなど専門機関との連携 ③誰もが安心して豊かに生活できる環境を作る ・特別支援教育研修・個別の支援計画・指導計画の作成・実践・振り返り・特別支援教室の運営	人権意識と自尊感情の育成に務め、生徒主体の人権週間の取組、保護者や小学校と連携した挨拶運動、ブロック人権研修等を実施した。生徒理解の手立てとして生活アンケート、YPアセスメント等を年間を通じて実施した。また、SC、SSWとも連携し、特別支援教育を推進した。	B
健康教育	①自他の命を大切にできる健やかな心と体を育てる ②食への関心を育て、食事の重要性を理解し、健康な食生活が実現できるようにする ・保健体育・体育祭・避難訓練・中学校給食の取組 ・保健室だよりを活用した保健指導	保健体育、家庭科を中心に健康に関する意識向上を図り、体育祭の取組を通じて体力向上、運動の楽しさを身に付けさせた。また、様々な想定の避難訓練を計画的に実施した。学校便り、保健室だよりを通じて食文化の理解や健康につながる情報を発信した。	B
自分づくり教育	①特色ある教育課程を通して、生徒自身が、自分も地域の一員であるという自覚がもてるようにする ②体験を通して、生徒が主体的に道路を考え、選択決定する力を育てる ・キャリア教育推進 (1年マイスター2年職場体験3年道路学習) ・地域行事	コロナ禍でも地域との交流を維持するために、区役所作成のワークシートを活用しながら地区別会議を実施した。職業講話、職場体験、高校出前説明会を実施し、キャリア教育を充実させた。特に、職場体験では貴重な体験と主体的な事前事後学習が実施できた。	B
いじめへの対応	①いじめを絶対許さない意識を育て、いじめの起きにくい学校風土をつくる ②いじめ防止対策委員会を月1回開催し、問題の未然防止、早期発見、早期解決、再発防止に努める ・いじめ防止対策委員会・生活アンケート ・YPアセスメント・学年間での情報交換 ・SC、SSWなど専門機関との連携	年5回のアンケート(YPを含む)を実施し、教育相談に繋げるごとに、日頃よりアンテナを高く情報をキャッチし、教職員間で共有、相談、素早い組織的対応を行った。今後も、広く拾うという姿勢で、積極的認知を続けていく。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①全職員が安心して豊かに働ける職場にする ②職員が明確な目標や課題をもって職務に取り組む、キャリアステージに応じた資質能力を身に付ける ・メンター研 ・主幹によるミドルリーダーの育成(研修運営) ・年休10日取得プロジェクト	業務改善は進んでいるが、まだ課題が多い。各部署の仕事を再定義し、業務の偏りを少なくするなど取り組んでいく。また、定時退勤日は形骸化してきている。業務改善、組織改革を含め根本的な改革を進めている。メンター研を年3回実施した。	B
地域学校協働活動	①保護者・地域と互いに情報を共有し、連携・協働して共に子どもを育てていく ・中学生川柳・学校だより・学校HP等による情報発信 ・学家地連・地区懇話会・学校運営協議会 ・むつら教育支援本部との連携・地区別班会議	生徒が地域に関する川柳を考え、地域と連携した活動を行った。また、学校運営協議会、むつら教育支援本部、地区懇話会等で学校の課題や困り感を発信し、地域の方や保護者と連携しながら学校運営を考えることができた。	B
小中連携	①小中9年間で人権尊重の精神を基盤とする教育を通して、育成したい資質・能力を育てる ②小中での情報交換を密に行い、学習指導・生徒指導に活かしていく ・金沢ブロック人権研修・小中ブロック授業参観 ・小中合同地域理解研修・小中児童生徒交流日 ・児童支援専任・生徒指導専任間の情報交換	ブロックとして合同研修を開催し連携を深めるとともに、児童生徒の学習、実感を共有したことは有意義であった。児童生徒交流日では、近隣小学校6年生に中学校の生活を見学してもらった。今後、あいさつ運動やどこも会議以外の児童生徒の交流の機会を増やしていく。	B
ブロック内評価後の気づき	○今年度はブロック内で人権をテーマにした合同研修を行うことができ、「相手意識」を持った行動の大切さを再確認することができた。 ○授業研究会では、「気になる子“Aさん”についてYPアセスメントを用いた授業実践の取組」を行い、授業づくりや教材指導法について研修を深めることができた。また、小中間で生徒の理解強化に共有できる貴重な機会となった。 ○いくつかの行事は中止になってしまったものの、児童生徒交流日の授業見学や小学校でのあいさつ運動は行うことができた。今後も交流を深めていきたい。		
学校関係者評価	○いじめ防止・早期対応に関する取組を積極的に行っていることは評価できる。これからもいじめ防止の取組を充実させてほしい。○生徒・教職員がしっかりと挨拶ができていく。○コロナ禍で制限がある中、学校の多くの情報を地域に発信し地域連携に取り組んでいる。また、生徒の地域川柳を町内や福祉施設等に掲示された。○防災では、関東大震災100年を意識していたことや、区役所・地域と共に実施でき、充実していた。		
中期取組目標振り返り	安全・健康に過ごすために全校でできる限りを尽くした。YPアセスメントを絡めた授業研究は、一人一人の安心を高め、学習への主体性を伸ばし、小学校との連携強化に手応えを感じた。いじめを積極的に認知する意識が高まり早期発見・解決につながった。地域との関わり方を多様化させたことで子どもも大切にされている感覚を自分で自分づくりを進め成長した。今後は地域の課題を一緒に解決する取組に挑戦させたい。職員数減に向け業務を整理して組織を改めた。それが働きやすくなり人材が育つ職場につながることを期待する。		

重点取組分野	令和5年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
自尊感情を育てる授業づくり	①基礎基本の定着を図るために ・8標準明示・見通し振り返り・授業中の支援・AIドリルで個別最適化 ②学習を支える非認知能力を伸ばすために ・教材以外の学習の充実・協働的、体験的な学習を重視・YPアセスメントを活用した授業	・AIドリルを副教材化することにより、基礎・基本の定着、知識・技能面の定着、学習の個別最適化な学びを進めることができた。 ・評価のガイドライン制定・校内授業研などで評価基準の見直しや考え方を共有することにより、授業づくりや評価を学ぶことができた。	B
人権教育	①生徒一人ひとりの人権意識と自尊感情を育てるために ・挨拶運動・人権週間の取組・金沢ブロック人権研修・校内人権研修・校内ハートフル ②生徒の背景を踏まえた深い理解に基づく組織的対応のために ・生活アンケート・YPアセスメント・学年間での毎日情報交換・SC、SSWや専門機関との連携 ③誰もが安心して豊かに生活できる環境を作る ・特別支援教育研修・個別の支援計画・指導計画の作成・実践・振り返り・特別支援教室の運営	・YPと生活アンケートを計画通りでできた。 ・特別支援教室の運営について、職員の協力によって円滑にすすめることができた。 ・人権に関する仕事が人権専任に集中してしまっている。人権(特別支援)という役割を再考する必要がある。人権専任が別の指導部にいるため、連携が取りにくくなってしまった。	A
健康教育	①自他の命を大切にできる健やかな心と体を育てるために ・地域の方が見学する避難訓練・地域と合同での津波訓練・保健体育 ②食への関心を育て、食事の重要性を理解し、健康な食生活が実現するために ・家庭科・中学校給食・保健室だより・保健安全委員会活動	地域の方が見学する避難訓練を実施し、講習をいたくなく新しい取組ができた。生徒は訓練に慣れてきており、目的を理解し、すばやく動けるようになっている。食や健康について、昇降口のテレビを使い、生徒の目届くようにできた。1年の保健分野で食事の重要性の学習を行った。保健環境委員会が、学校カウンセラーにストレスに関するインタビューを行い、放送にて全校で共有することができた。	B
自分作り教育	①体験を通して生徒が主体的に道路を考え選択決定する力を育てるために ・キャリア教育推進(1年職業講話、2年職場体験、3年道路学習) ②地域の人との関わりを通して自分をみつげるために ・地域行へへの参加・地域課題を解決する総合の時間(地区別会議、地域川柳等)	・地域の方にコーディネートしていただく形で、地域の方々と関りが深まり、様々なキャリアに触れることができた。今後も継続していけると良い。 ・職場体験は六浦中での歴史が浅いが、体験を通して主体的に道路を考える良い機会であり、職員のシステム化や誰もが取り組めるようなキャリアの流れを作っていく必要がある。	B
地域学校協働活動	小学校・保護者・地域と連携・協働して共に子どもを育てていくために ①小中連携で「金沢ブロック年間取組、小中ブロック授業参観・小中合同地区懇・小中児童交流日、小中挨拶運動 ②保護者地域連携で「PTAとの連携、むつら教育支援本部との連携 ③学校運営協議会・学家地連の取組・学校だよりや学校HP等による情報発信・地域行事を学校行事予定表に記入	・特にむつら教育支援本部との連携により、キャリア教育の充実を図ることができた。むつら教育支援本部は他の学校には差別化を図れない取組である。学校教育と連携していくと差別化を図ることができると考える。小中一貫教育の授業研は、授業参観の形に変えてみた。中学校側としては、今後もこの形でやりたいと考える。	B
いじめへの対応	①いじめを絶対許さない意識を育て、いじめの起きにくい学校風土をつくるために ・問題の未然防止、早期発見、早期解決、再発防止の諸取組 ②いじめについて組織的に対応するために ・いじめ防止対策委員会毎月・生活アンケート・YPアセスメント・学年間情報交換毎月・SC、SSW、機関連携	YPアセスメントや生活アンケートを通して、多くの目で生徒を見守ることができた。また、日々子どもの様子を共有することができ、生徒指導が起きたときにすぐにそれに、担任、主任、専任との連携がしっかりとられ、学年を超えて対応することができた。SCやSSWとよりよい関係を築けるように連携を密にしていきたいようにしたい。	A
働きやすい職場作り	①職員の心理的安全を大切にするために ・ハラスメント窓口・ハラスメント研修・管理職との1on1・メンター・人権研修 ②教育という魅力的な仕事に情熱をもって健康的にチームで携わるために ・計画年休や短時間年休や休時間分割を推奨・毎月定時退勤日設定・年休10日、19時退勤、時間外在校時間減目標	看護教諭、人権専任の力を借りながら各種研修を実施するとともに、業務上の課題や悩みを定例、随時の1on1面談や教職員相互の相談等により共有し共に考ええる風土を作り、働きやすい職場を目指した。また、令和4年度内に検討した事項(行事の見直し、組織改編、DX、指導員顧問化等)や教職員一人ひとりの努力により時間外在校等時間も削減されている。	B
ブロック内評価後の気づき	○SSWにカウンセリングを受ける機会も、小学校の児童指導専任とともに、支援検討会を行うことができた。YPアセスメントを活用しながら、「だれもが」「安心して」「豊かに」の視点で、子ども一人ひとりの背景を捉え、寄り添いながら、チームでその課題解決をはかることができていることを意識する貴重な機会となった。 ○従来、小学校での授業研究会を行ってきたが、今年度は職員の負担軽減を意図して、指導案を差しながら研究会とした。9年間をとおして子どもの成長を見守るという点で十分目的を果たすことができたが、指導案がないと視点や明確化しないなどの意見も多かった。		
学校関係者評価	○昔の六中と比べると比較にならないほど目的意識がしっかり持っているようにうかがえる。登下校時の態度や休日等の過ごし方にあわせて、町中での目的もくわらうる生徒も少なく、六浦に住んでよかったと思えている。○「人権教育」や「いじめの対応」がA評価など日頃の取組の成果だと思う。今後、働きやすい職場作りにより「地域学校協働活動」がどのように変わっていくか気になる。○卒業式に参列し、生徒が自分たちで、自分たちの言葉で、式を作っていたことを感懐深く受け止めた。様々なことが突っついていく時代の中で、授業の形や質、そして、行事、部活の方や質についても試行錯誤が続いていることと思う。教職員の皆さんが、生徒と一緒に考え、共に歩んでいることを感じることができた。		
中期取組目標振り返り	SSW、小学校児童指導専任とともに行った支援検討会は、「生徒一人ひとりが」「安心して」「豊かに」行動できるように見守ることを職員が深く意識できる意味でもう取組であったと思われる。むつら教育支援本部との連携により、職業マイスター講話や職場体験など、キャリア教育の充実を図ることができた。むつら教育支援本部は他の学校には真似できない取組であることを実感できた。また、地域の方に防災訓練と一緒に参加してもらい、避難経路を確認することができた。また、今年度久々に実施してきた地域行事を通して、地域との関わり方や中学生に期待されていることを学び、一体感を感じることができたことは貴重な経験となった。今後も本校の特徴的な行事と中継していきたい。職員の負担軽減を意識しながら、生徒に「生きる力」を身につけていきたい。		